

# 『『ありがとう』の笑顔に逢いたくて』

— 高齢者との交流を通し、いじめ・不登校をのりこえる子ども —

○自尊感情の育成 ○差別に気づく力の育成 ○共生(連帯)意識の育成

中学校 1・2年

## 1 題材設定の趣旨

いじめや不登校を経験した生徒たちが、特別養護老人ホームの方々との交流活動を行うことで互いに心を開き、友の声を聞きあうことができる学級を作り上げていく力を育てる。

## 2 ねらい

- ・交流を通し、高齢者の心の優しさや温かさに触れ合うことにより、自分の心を深く見返しながら、互いに認め合い支え合うことや信頼し合うことは大事なことでと気づく。
- ・自分も、友だちも、高齢者も、全ての人々が人格を持った個人として、互いに尊重し合わなければならない存在であることに気づく。

## 3 留意点

- (1) なぜ「特別養護老人ホーム」との交流をしたいのか、心の内を語り合う授業時間を確保する。
- (2) 交流会のための交流にならないために、子どもたちがどのように活動するのか、また、どの場面で考えるのか、その学習が子どもの学びにどう関わるのかを、子どもの実態をもとに、仮説として練り上げておくことが必要となる。
- (3) 地域の福祉課等と連携し、交流できる様々な施設について確認する。
- (4) 施設の方々や入所者の願いと交流目的について事前に十分打ち合わせをする。

## 4 学習の流れ（1、2年・年間指導計画）

月	学習内容	活動内容(人権の視点)	評・価
一月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換(学級会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動で「何をしたらいいのか」を話し合い、特別養護老人ホーム訪問と内容を決定する。</li> <li>・特別養護老人ホームと交流する意義を話し合う。(自己理解)</li> <li>・交流活動のリーダー決定をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問の意義がわかったか。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     なぜ交流するのか                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーが特別養護老人ホームを訪ね、「私たちにできることは何か。」について、施設の方にお話を聞きに行く。</li> </ul> </div>	
二月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の決め出し</li> <li>・訪問者は？</li> <li>係は？</li> <li>会場係・BGM</li> <li>接待係 従業員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2と第4土曜日を使っていく。</li> <li>・都合の悪い人は参加しなくても良い。</li> <li>・月ごとの活動計画を話し合う。</li> <li>活動時間は AM9:30～11:00とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係の責任がわかったか。</li> </ul>

三月

・演奏について。  
第1回キッサ店

- ・全館清掃を行う。
- ・「キッサ」を開店する。
- ・「川の流れるように」のテーマ曲が流れる。  
(相手の立場を考える)

・仲間の連携の  
大切さがわかつ  
たか。

T: いらっしやいませ (本当に来て下さってありがとう)  
の感謝の気持ちでお迎えしよう。

四月

・清掃

- ・全館清掃を、気づきを基に行う。



・キッサ

- ・係を中心に活動し、沢山のおじいちゃん・おばあちゃんの車椅子介助を行う。  
S子のサクソフーン演奏が入る。

・涙して聴くお  
じいちゃんに  
昔を想う気持  
ちを感じ取る  
ことができた  
か。

今月の「キッサ」について話し合う。  
特別養護老人ホーム訪問のビデオをみて「手の不自由なBさんのお世話があまりされていないのはどうして？」

(相手の立場の理解)

五月

・「こいのぼり」  
キッサ

- ・中庭でカラオケ大会  
おじいちゃんやおばあちゃん方とデュエットする。
- ・戦死した夫にささげる歌など涙して歌ってくれた。
- ・ふとんを干す。

六月

・清掃 (2階棟)

- ・各部屋の清掃 (ふとんを干されるのをいやだと言った)
- ・車椅子を介助して散歩に出る。
- ・ダンス、ビーチボール、輪投げなど、寂しい人がいないように気を遣って行く。

・相手の気持ち  
を考えること  
ができたか。

・キッサ

七月

・清掃  
・キッサ

- ・窓拭きをしよう。
- ・七夕まつりを行う。
- ・願い事を書いて欲しい。



- ・もっと生きていたい。
- ・中学生がいつまでもきてね。
- ・健康な体にしてね。
- ・目が見えるようになりたい。

- ・様々な願いがあることに気付けたか。

八月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃</li> <li>・キッサ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井や電気の傘などの清掃を行う。</li> <li>・コーヒー ・お茶の会 ・クッキー作り</li> <li>・うすやき作り（おらも昔作ったわい）</li> </ul>	
九月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床は3度ふきをしたい。</li> <li>・おじいちゃんやおばあちゃんの要望でトイレ清掃を行う。</li> <li>・車椅子で中庭までお連れする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沢山のの人に声をかけられる自分になってきたか。</li> </ul>
十月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッサ店（もみじ会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み物（コーヒー・お茶・こんぶ茶）</li> <li>・佐渡おけさをみんなでおどる（はっぴ用意）</li> <li>・「感謝の集い」について話し合いを行う。</li> </ul>	
十一月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C男も、D男、A男もみんな優しくなった。</li> <li>・どうして？</li> <li>・なんだかわからないけれど特別養護老人ホームに行ってみたら気持ちが変わってきたように思う。</li> </ul>	
十二月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「感謝の集い」&lt;1年間ありがとう&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンドルサービス&lt;一人一人にキャンドルサービスを行う&gt;</li> <li>・合唱 おじいちゃん・おばあちゃんの入場</li> <li>・代表挨拶・&lt;1年間の感謝の作文を読む&gt;</li> <li>・父母20人参加・東京音頭を踊る。</li> </ul>	

## 5 C男とS子の受容を求めて（実践事例）

### （1）C男とS子の姿と願い

#### <C男>

C男は小学校低学年で父親と死別。その後母親の再婚、離婚という家庭環境の中で生活していた。さらに、中学校入学後も学級に居場所を見つけられず、保健室に居場所を求め、自分の好きな授業には出るが自由気ままに学校生活を送っていた。このC男が、高齢者との触れ合い活動により、高齢者の思いや願いを肌で感じることを通して、人は互いに支え合って生きている存在であることに気付くことを願った。

#### <S子>

父親の病気により、幼児期に祖父母の家に引っ越してきた。小学校4年の頃、C男を中心にした男子から嫌がらせを受け、それ以来約2年半の間不登校となった。中学生に

なり、学校へ登校しようとしたが、なかなか学級に入れず、登校した時には、家庭科準備室で過ごした。しかし、特別養護老人ホームの方々と交流を持とうという話し合いの時は、「私も何かしたい」という積極的な気持ちから、教室で居場所を見つけていった。それは、「切り絵」「貼り絵」の得意なS子にとって、自尊感情を持つに至る過程であった。

このようなS子に、クラスの仲間と一緒に特別養護老人ホームの方々と触れ合うことを通し、自分から人と関わることにより人間関係が広がることは心地よいことであることを知ってほしいと願った。

## (2) 指導上の留意点

- ・子ども達の意識の変容を生活記録を通して把握する。
- ・すばらしい気づきを、学級通信等を活用し子ども達に広める。
- ・支えているつもりの高齢者から、自分も支えられていることに気付く過程を大事な学びととらえ、そこに至る心の成長を後押ししていく。
- ・C男にいじめられていたS子の姿を同時に把握していく過程で、居心地のよい学級とはどのような姿かをとらえていく。

## (3) 実践記録

### A C男の心の変容 ～生活記録などから～ (〇〇さんに想いを寄せていく)

4月 どうしようかなくズクの無い自分にもできるのかな>  
はじめは「いやだなあ」と思っていました。俺の友達も行くというので参加しました。これから、みんなの頑張っている姿を見て俺は清掃に力を入れていこうと思いました。

4月 何回も頭を下げるおじいちゃん<どうしてかなと気にしてしまうC男>  
俺は窓拭きと花壇の土起こしをしました。一人のおじいちゃんが車椅子に座ってずっと俺たちを見ていました。目があうと何回も何回も頭を下げます。どうしてかなあと思っていたら、T男君が「ありがとう、ありがとう、って言っているんだよ」と教えてくれました。俺はとでもうれしくなって張り切りました。そして、そのおじいちゃんに「きれいな花だね」と、いつか言われるようにしようと思った。

5月「俺も泣いてしまいました」  
おじいちゃんの名前は〇〇さんだと言うことがわかりました。〇〇さんは熱があるということで、フロアーにでてきませんでした。作業が終わって、何か寂しい気持ちだったので、〇〇さんの部屋を訪ねました。〇〇さんと握手して…そのうち〇〇さんが「ありがとう」って泣きながら言ったのです。俺も泣いてしまいました。こんな気持ちになった俺だけどいいんだよね先生。

6月 またきてねの笑顔にあいたくて <温かさにふれていくC男>  
何か寂しくなって〇〇荘に学校の帰りによりました。〇〇さんは「またきてね」と涙を浮かべていました。

7月 後で笑ってしまった  
今日は床清掃の日だった。学校の床とちょっと違うけれど、三度拭きをすることにしました。女子の人は外で布団を干していました。僕は〇〇さんの布団をこっそり干しに行きました。自分で後で笑ってしまったけれど。